

今後の県立高校に関する地域検討会議（第１回）（沿岸南部地区）
意見交換の記録（要旨）

【陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町】

令和７年６月４日（水）
三陸公民館 大ホール

石渡 史浩 陸前高田市副市長

- ・ 高田高校は、本市唯一の高校であり、人材育成、地域発展に欠かすことのできない存在である。
- ・ 高田高校の魅力化や学科改編が必要であると感じており、国際分野を重視した教育の展開、震災防災教育の充実、海洋、水産に関する専門教育の強化等、地域特性を生かした学科設置が必要と考える。
- ・ 医師となる人材を地域で育成していくという観点から、医学部進学コース等を設置し、医療人材育成にも取り組んでいただきたい。

藤枝 修 大船渡市副市長

- ・ 沿岸部の高校は、地域の特色が十分に反映されておらず、学力の高い生徒が盛岡地区に集中している現状がある。
- ・ 地域での医師養成が必要であり、医療系専門コースの設置が必要ではないか。
- ・ 特進クラスの設置、スポーツに力を入れた学校の設置等により、私立高校への流出を緩和できるのではないかと。

小向 正悟 住田町副町長

- ・ １学級校もできる限り維持するという後期計画の考え方について、次期再編計画でも踏襲していただきたい。
- ・ 人口減少を考慮し、遠隔教育、学校間連携を推進してもらいたい。また、校舎制の導入を検討する際には、施設の修繕や整備を前提に慎重に対応してもらいたい。
- ・ 県全体で県外募集を推進し、山形県の「留学バスツアー」のような施策の導入を期待している。

平松 福寿 釜石市副市長

- ・ 行政効率化のため、盛岡地区等への集中は理解できるが、沿岸地域の人材育成も考慮すべきではないか。
- ・ 沿岸地域に医師や学力におけるいわてスーパーキッズのような生徒を育成できる学科の設置を要望する。
- ・ 単純な効率化ではなく、多様なニーズに対応できる形での再編を希望しており、魅力的な県立高校の再編であれば、市として積極的に協力したい。

菊池 学 大槌町副町長

- ・ コーディネーターの存在によって、生徒の学びの質が向上し、地域住民との関わりが広がることを実感している。また、教員が教育活動に集中しやすくなるといった効果が上がっている。
- ・ 今後も、町と高校とが協力しながら、持続可能な学校改革を推進していきたいと考える。
- ・ 県と市町村が連携し、コーディネーターを配置するといった配慮をいただきたい。

伊東 孝 陸前高田商工会 会長

- ・ 高田高校では、国際交流や大学との連携、震災学習、海洋システム科における６次産業化等の学

習に取り組んでおり、保護者等の満足度も高い。

- ・ 特色ある教育環境をさらに強化するとともに、いわて留学を進めて生徒数増加を図っていくべきと考える。

吉田 宏 広田湾漁業協同組合 定置事務長

- ・ 地域や地域産業を担う人材育成のためにも、海洋システム科の存続をお願いしたい。

齊藤 光夫 大船渡商工会議所 専務理事

- ・ 少子化と進学率の上昇により、新卒就職者の絶対数が減少しており、地元企業が高校生・大学生の採用募集を出しても応募が少ない状況であり、地元企業の人材不足が深刻化している。
- ・ 地元企業を高校生に周知するため、出前授業を実施している。事業開始からの期間が短いため、効果はまだ不明だが、今後の成果に期待している。
- ・ 地元の高校生が地域について深く理解し、愛着を持てるような教育の推進を望んでいる。地元の魅力を知ること、将来的に地域へ戻る若者の増加が期待できるのではないか。

佐藤 準悦 大船渡市農業協同組合 常務理事

- ・ 地元企業の採用募集に応募が少なく、人材不足が深刻となっている。地元の高校が統廃合されると、さらに人材確保が困難になる恐れがある。
- ・ 専門高校は、広域統合か学科併設のどちらかで存続を図るべきではないか。また、学科併設により専門性を維持しつつ、多様な科目を設けることで生徒の選択肢を広げることができるのではないか。

千葉 憲一 気仙地方森林組合 業務課長

- ・ 住田町の中学生は、住田高校のほか、大船渡市、陸前高田市、釜石市、盛岡市、花巻市、遠野市の高校に分散して進学している。以前は通学時間を基準に高校を選択していたが、現在は個性や目標で選択する傾向にあると感じている。
- ・ 住田高校では、町と一体となった高校の魅力づくりにより、町外や県外からも生徒が入学している。また、住田高校独自の「地域創造学」により生徒が目覚ましい成長をしている。
- ・ 小規模校は、地域に根ざした存在として重要であると考え。地域住民が一丸となって住田高校を支援している。

奈良 朋彦 一般社団法人邑サポート 代表理事

- ・ 住田高校の魅力化サポーターという立場で、生徒たちの応援、魅力化推進事業の手伝いをしている。
- ・ 住田町の「地域創造学」は保育園から高校まで一貫した学習を実施しており、自分が興味関心を持つ内容に様々なチャレンジをしている。その中で、生徒が、新しい概念（LGBTQ など）を地域に伝えてくれるといった側面もある。
- ・ 地域との関わりでは、コーディネーターの役割が重要であると感じている。

小笠原 順一 公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター職員

- ・ 高校生ファーストというキーワードだけは絶対外さないで欲しい。
- ・ 釜石高校のスーパーサイエンスハイスクールや、宮古高校の探究学習に関わっている中で、地域に関わる機会を増やす場の確保が必要と考える。
- ・ 市町村ごとの独自の取組ではなく、広域で医療、スポーツ、文化、教育を連携させるべき。また、教育関係だけでなく、商工労働分野とも連携し、地域の発展を目指すことが必要である。

芳賀 光 有限会社ティー・ティー・エムつつみ石材店 代表取締役

- ・ 学力を重視する生徒は盛岡などの県央の高校へ進学する傾向がある。また、スポーツに力を入れたい生徒は私立高校を選ぶことが多いと感じている。
- ・ 公立高校の課題として、特色を強化する必要性があるのではないか。
- ・ 大人の都合で「地元で働いてほしい」と押し付けるのではなく、子どもの意見を尊重すべき。
- ・ いわて留学により多くの生徒が入学しているが課題もあり、人が増えることでのトラブルやリスクへの対応が地域の役割であると考えている。また、地域と学校を繋ぐコーディネーターの役割も重要である。

齋藤 卓 陸前高田市立高田第一中学校PTA 会長

- ・ 自分の娘が、気仙沼の私立高校に興味を持っている。
- ・ 県外への流出を防ぐためにも、高校の特色を出して行くことを期待する。

芳賀 新 大槌町立吉里吉里学園PTA 会長

- ・ はま留学により生徒は増えたが、課題もある。県立高校ではあるが、市町村がきちんと責任を持って高校をバックアップして欲しい。
- ・ 現在の高校はどこも定員割れの状態であり、本来あるべき学力が無くても入学できる。また、高校でこういったことをしたいのかというビジョンがないまま入学するため、入学生を増やすだけでなく、出口をしっかりと作ることが重要である。
- ・ 沿岸地区に医系の専門課程が設置されることを望む一方で、指導する教員の配置も考えると、内陸部への設置でもよいのではないかとの思いもある。医系の専門課程の設置については、全県単位で検討する必要があるのではないか。
- ・ 少子化等の影響を考えると、県立高校の再編は絶対に必要だと考えるが、単に人数により統合するのではなく、ビジョンを持った統合としてもらいたい。
- ・ 学区制度を撤廃し、優秀な生徒が自由に進学できる環境が必要ではないか。

山田 市雄 陸前高田市教育委員会 教育長

- ・ 高校の授業料無償化により特色のない公立高校は定員割れがますます進むのではないかと。一方、私立高校は特色を強化し、生徒の選択肢として魅力を高めている。公立高校も特色ある教育を推進し、競争力を持つことが必要である。
- ・ 地域みらい留学や地域連携コーディネーターの導入は学校の活性化に有効だと考える。学校の運営を教員だけに任せず、自治体と連携した支援が重要である。
- ・ 気仙地区は専門学科が充実しており、中学生の県外流出が少ないが、定員割れが進んでおり、現状のままでは厳しい状況である。今後は、専門学科を削減せず、総合的な専門学科を設けて学びの選択肢を残すべきと考える。

小松 伸也 大船渡市教育委員会 教育長

- ・ 特色ある学校づくりが求められるが、公立高校は予算、制度上の限界がある。私立は自助努力で魅力を高めているが、公立高校も同様に競争力を持つべき。
- ・ すべての生徒を支援するためには、教員の資質向上や指導力の強化が必要である。
- ・ 普通科について、専門性では専門高校に及ばず、多様性を求めても大学入試との矛盾が生じる。
- ・ 小学生・中学生・高校生の意見をどのように計画に反映させるか検討すべき。

松高 正俊 住田町教育委員会 教育長

- ・ 住田町と遠野市の進学実態を踏まえた地区割となっていることを評価する。
- ・ 住田高校は、大船渡市、陸前高田市、釜石市などからも入学がある。また、いわて留学も含め、多様な地域から生徒を受け入れている。
- ・ 住田高校では、海外研修や小規模校ならではのきめ細やかな指導を実施している。
- ・ 住田町では、給食無償提供、通学費補助、英検受検料無料などの経済的支援を行っている。
- ・ 入学生確保のため、県の魅力化推進事業との連携を希望する。

高橋 勝 釜石市教育委員会 教育長

- ・ 高校の魅力化については、地域との関わりや部活動だけでなく、授業そのものを魅力的にする必要がある。
- ・ 能力や習熟度に応じた学びのコース設定が特色強化に繋がるのではないかな。
- ・ 沿岸部の医師不足への対応が必要であり、地元で育った生徒が地域の医療に貢献できる仕組みを構築すべき。また、医学系コースは県央部だけでなく、沿岸部や県北にも設置し、人材育成を強化すべき。
- ・ 中学校の不登校生徒の増加に伴い、定時制、通信制高校の選択肢を拡充すべき。また、沿岸地域に定時制と通信制併設校を設置し、生徒の選択肢を増やすことが必要ではないかな。

松橋 文明 大槌町教育委員会 教育長

- ・ 地域に高校を残し、生徒が自分の住む場所で学べる環境を確保すべき。また、特色ある教育を推進し、生徒が誇りを持てる学校づくりが重要である。
- ・ 県外からの留学生受入については、宿泊環境の整備や地域住民の理解を深めながら進める必要がある。
- ・ 地元で高校がないと生徒の流出が進み、地域の存続にも影響することから、地域全体で高校を支援し、生徒が学びたいと思える環境を維持することが重要である。

佐藤 学 気仙地区中学校長会（陸前高田市立高田第一中学校長）

- ・ 私立高校の魅力化が進んでおり、公立高校も特色を強化すべき。
- ・ 震災後、地域の復興発展を担う人材育成に注力し、郷土愛が高まっている。
- ・ 地域の発展に貢献する企業や人材と連携し、県内外に誇れる教育環境を整備していくことが必要ではないかな。

金野 学 釜石地区中学校長会（釜石市立唐丹中学校長）

- ・ 高校の魅力があっても通学手段がないため、進学を断念する例が少なくない。経済的理由で希望する高校に進学できないケースもある。
- ・ 広域的な学校整備が進んでも、通学手段の不足が課題となるが、宮城県の私立高校では、気仙地区へスクールバスを運行するなどの経営努力を行っている。公立高校も通学支援策を検討し、進学機会を広げる必要があるのではないかな。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 子どもからの意見については、関心を持っているテーマについて、1位が「主に職業に関する学習」、2位が「大学進学を目指す学習」、3位が「自宅から通える範囲に高校があること」であった。
- ・ 広大な岩手県の地理的要因を考慮し、教育機会の保障を確保する必要があり、望ましい通学圏は片道1時間以内で、普通高校以外でも全ての高校が通学可能な距離にあることが理想である。
- ・ 沿岸地区は、学級数の多い学校が比較的少なくなっているため、単位制の導入による教員加算を

活用していくのも有効と考えている。

- ・ いわて留学については、重点推進校という形で、県としても取り組んでいくこととしている。また、地域連携コーディネーターの配置についても、市町村と連携した取組を進める。
- ・ 通信制について、盛岡の私立高校にかなりの人数が進学している状況であることを認識しており、県内全域の定時制を設置する高校への通信制の併設等について検討していきたい。

小松 伸也 大船渡市教育委員会 教育長

- ・ 全国的には「受入保留アルゴリズム型（DA 方式）」が導入され、第1～第3希望を考慮した入試方式が採用されている。子どもたちの進学希望を最大限に叶える制度が必要であり、導入を検討するべきではないか。

亀山 丈 学校教育室高校教育課長

- ・ 併願制には、メリット、デメリットがあると認識している。全国的には大都市圏で導入が進んでおり、岩手県に適しているのかといった点について、慎重に検討することが必要と考える。
- ・ また、高校の魅力化が進んでいるが、入試にどのくらい反映するべきかについても慎重に判断していく。

小向 正悟 住田町 副町長

- ・ コーディネーター配置について、教育委員会だけでなく、知事部局（ふるさと振興部）とも連携し、支援してほしい。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 昨年から知事部局と連携し、地域経営推進費を、地域みらい留学の費用に活用できることとなった。今後も知事部局と連携し、県単独での支援策を確立できるよう検討していく。

小笠原 順一 公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター職員

- ・ 部活動について、合同チームの活動のための費用などについて支援する制度等は検討しないのか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 他部局（文化スポーツ部）の所管となるので、相談しながら検討してまいりたい。